

# 平成27年度施策評価シート

基本施策	便利で快適な道路環境を整備する		
総合計画での位置付け	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
	分野	3	道路・交通
主要な計画	・地域公共交通総合連携計画 ・駐車場整備計画 ・橋りょう長寿命化修繕計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・日本一広大な面積を有する本市においては、各地域間を円滑に結ぶ道路網の整備は、市域の一体感の醸成に必要不可欠である。平成20年に東海北陸自動車道が全線開通し、中部圏や北陸圏からの本市への道路利便性が大幅に向上したことともない、観光客などの交流人口が大幅に増加する一方、市中心部などにおいて渋滞が発生している。</p> <p>・本施策は、豊かで美しい自然のなかで、飛騨地域の中核都市として利便性の高い都市的サービスを受けながら安全で快適な暮らしを実感できる「すみよさ」のあるまちづくりをすすめるため、便利で快適な道路環境を整備することを目的としている。</p>		

## 1 概要

施策	施策の内容	これまでの取り組み	担当部局
1 機能的な道路ネットワークの形成	ア 高速交通網の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東海北陸自動車道4車線化について、事業化決定権者の国に対し事業化を要望した。また、事業実施者の中日本高速道路㈱に対し事業化区間の早期完成を要望した。</li> <li>・中部縦貫自動車道の整備推進について、事業主体の国に要望した。</li> <li>・国事業の地元合意形成に協力した。</li> <li>・要望は毎年7月、11月、1月頃に関係自治体と連携して実施した。</li> </ul>	基盤整備部
	イ 地域間の道路交通の円滑化を図る地域間連絡道路網(環状道路や放射状道路)の整備推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業主体の国に対し、高山下呂連絡道路(宮峠トンネル、石浦バイパスを含む)、高山国府バイパス、富山高山連絡道路の整備推進を要望した。</li> <li>・事業の地元合意形成に協力した。</li> <li>・要望は毎年7月、11月、1月頃に関係自治体と連携して実施した。</li> </ul>	基盤整備部
	ウ 市域の一体感の醸成に向けた主要幹線道路となっている国・県道の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業主体である国・県に対し、国道41号、156号、158号、257号、361号、471号及び県道岩井高山停車場線他の整備推進を要望した。</li> <li>・事業に伴う地元合意形成に協力した。</li> <li>・要望は毎年7月、11月、1月頃に関係自治体と連携して実施した。</li> </ul>	基盤整備部
	エ 市街地中心部の道路交通の円滑化を図る都市計画道路や内外環状道路網の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画道路昭和中山線は、平成25年度に完了した。</li> <li>・都市計画道路西之一色花岡線及び高山駅東口線の整備を行った。</li> <li>・内環状線である市道千島線の整備を行った。</li> </ul>	基盤整備部
2 生活に身近な道路の整備	ア 市道の整備と適正な管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市道花岡上岡本線(第2校路切)や塩屋見座線他の整備を行った。</li> <li>・道路法に基づき、道路台帳を整備することで適正な道路の管理を実施した。</li> <li>・町内要望、パトロール等から修繕が必要と判断した路線及び中長期的な修繕計画による路線等を順次改修し、安全性・利便性の確保に努めた。</li> </ul>	基盤整備部
	イ ユニバーサルデザインに配慮した人やさしい道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既設側溝改修、路側帯のカラー舗装、歩道の段差解消、グレーチング蓋の細目化等の道路施設バリアフリー化整備及び融雪ブロック、知らせる明かり等の歩行者移動支援施設整備を実施した。</li> </ul>	基盤整備部
	ウ 景観と調和した親しみのもてる道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横丁・周遊路整備による沿道修景により、景観と調和した親しみのもてる道路整備を行った。</li> <li>・道路沿いの生けがき設置に対する補助により、沿道空間の緑化を促進した。</li> <li>・既存街路樹の適正な剪定等により、景観及び周辺住民の生活に配慮した管理を行った。</li> </ul>	基盤整備部
3 の橋りょうの整備	ア 老朽化した橋や耐震性能が劣る橋の架け替えや耐震補強整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋長15m以上の橋りょうについて「高山市橋りょう長寿命化修繕計画」を策定し、架け替えや耐震補強及び長寿命化修繕を実施した。</li> <li>・橋長15m未満の橋りょうについても、緊急輸送道路に掛かる橋りょうや孤立集落対策の橋りょう、及び交通量の多い橋りょう等、重要性の高い橋りょうについて整備を実施した。</li> </ul>	基盤整備部
4 道路利用環境の向上	ア 駐車場案内情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市ホームページに駐車場情報を掲載し、インターネットや携帯電話で利用できる満車・空車情報等の最新情報を提供した。</li> <li>・高山祭やゴールデンウィーク期間中に案内看板の設置、FMラジオでの情報発信等を実施した。</li> </ul>	基盤整備部
	イ 駐車需要の一時的な増大に対するシャトルバスの運行や臨時駐車場の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山祭やゴールデンウィーク、お盆の期間に臨時駐車場を開設し、交通整理員の配置やシャトルバスの運行等を実施した。</li> </ul>	基盤整備部
	ウ 市街地における交通渋滞対策についての検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の身近な足として、また観光客にも利便性の高い交通手段として地域公共交通を整備した。</li> <li>・市街地の市営駐車場とまちなみバスの関連性を調査した。</li> <li>・道路交通網の整備による交通量の増加や経路変化等による駐車場利用状況を調査・検討し、市営駐車場の適切な管理・運営を実施した。</li> </ul>	基盤整備部
	エ 道の駅がもつ道路情報や観光情報などの発信機能、休憩機能、販売機能の強化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各道の駅において道路情報や観光情報などを提供するとともに、地域の拠点施設として道の駅付帯施設において新鮮な地元野菜や特産品を市民、観光客に販売した。</li> </ul>	商工観光部

## 2 指標の推移

指標名	単位	関連 施策	好まし い 方向	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標
道路台帳更新路線数	本	2-ア	↑	160	169	176	134	166	67	170
歩行空間整備(バリアフリー)	m	2-イ	→	653	935	780	543	723	622	540
歩行者移動支援施設整備(知らせる明かり)	交差点	2-イ	→	14	6	4	4	4	0	4
横丁整備延長	m	2-ウ	→	329	1,134	504	353	0	0	-
臨時駐車場開設	箇所	4-ア 4-イ	↓	7	6	11	4	8	8	13
1便あたり平均利用者数	人	4-ウ	↑	-	-	3.1	3.8	4.2	4.1	4.3
延べ利用者数	人	4-ウ	↑	-	-	179,882	173,611	172,216	164,063	200,000
まちなみバス 1便あたり平均利用者数	人	4-ウ	↑	-	-	3.9	4.8	5.3	5.3	-
まちなみバス 延べ利用者数	人	4-ウ	↑	-	-	33,855	34,790	37,685	37,060	-
道の駅施設利用者	人	4-エ	↑	953,231	930,037	885,259	877,734	851,565	767,576	1,000,000

## 3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために 改善等を行う優先度	
H21	点数	56.5	(平均) (54.6)	77.8	(平均) (79.7)	Ⅳ	低い
	順位	42施策中 16 番目	42施策中 25 番目				
H25	点数	55.3	(平均) (56.9)	81.5	(平均) (81.8)	Ⅲ	やや低い
	順位	43施策中 29 番目	43施策中 25 番目				
H27 (今回)	点数	57.6	(平均) (56.0)	80.7	(平均) (81.2)	Ⅳ	低い
	順位	43施策中 22 番目	43施策中 23 番目				

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		商工観光部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
4	道路利用環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>各道の駅において道路情報や観光情報などを多くの市民、観光客に提供するとともに、道の駅付帯施設において新鮮な地元野菜や地元特産品を提供したが、利用者数は減少傾向にある。</li> <li>一部の道の駅では採算性が悪化している施設もあり、継続した経営改善への取り組みが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特色・特性を活かした特産品の開発や道の駅の販売機能の強化と活用などによる地域のにぎわいを創出</li> </ul>

担当部局		基盤整備部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
1	機能的な道路ネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>高速道路網の整備推進に向けた関係自治体等と連携した要望により、東海北陸自動車道及び中部縦貫自動車道の高速道路網や、地域間の重要な交通網である高山国府バイパス、石浦バイパスの事業が推進され、活動の成果が着実に表れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係自治体等との連携をより密にした要望活動の実施する。</li> <li>事業の地元合意形成にむけた協力を継続し、早期完成を図る。</li> </ul>
2	生活に身近な道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、上切中切2号線や花本線など地域に密着した道路の整備を継続して実施している。</li> <li>道路整備完了箇所や占用変更箇所を台帳に反映して、適正な管理を実施している。</li> <li>町内要望のデータベース化により、緊急性・重要性・事業費・実施時期等を管理し、優先順位の高い路線及び中長期的な修繕計画による路線等を順次改修している。</li> <li>市街地の限られた道路用地の中で歩行空間を確保し、歩車共存型道路を整備している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備の重要性、緊急性の高い道路を選定し、計画的かつ集中的に整備を進める。</li> <li>道路を適正に管理するため必要であり、継続して道路台帳の業務委託を実施する。</li> <li>引き続き、町内要望のデータベース化により、緊急性・重要性・事業費・実施時期等を管理し、優先順位の高い路線及び中長期的な修繕計画による路線等を順次改修する。</li> <li>工法や資材においてコスト縮減に取り組み、道路施設バリアフリー整備5か年計画に基づいて引き続き整備を進める。</li> </ul>
3	橋りょうの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>15m以上の橋りょうについて、「高山市橋りょう長寿命化修繕計画」に基づき25橋完成した。</li> <li>橋長15m未満の橋りょうは、H26までに26橋完成した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期の「高山市橋りょう長寿命化修繕計画」を策定し、計画的な整備の推進を図る。</li> <li>橋長15m未満の橋りょうについても、重要性などを考慮し、順次、整備を進める。</li> </ul>
4	道路利用環境の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>古い町並界隈では車両や歩行者が集中し混雑しており、安全確保や落ち着きのある町並み形成のための交通対策が求められる。</li> <li>高山市ホームページに駐車場情報を掲載し、満車・空車情報等の最新情報を発信した。また、高山祭やゴールデンウィーク期間中にFMラジオでの情報発信を行った。</li> <li>高山インターの整備による交通量の増加や経路変化等による駐車場利用状況を調査・検討し、誘導看板等による渋滞緩和対策を実施した。</li> <li>高山祭やゴールデンウィーク等には混雑するが、平日の利用客は年々減少傾向にある市営駐車場もあるため、存続を含め経費削減が課題である。</li> <li>誰もが解りやすい案内や使いやすい情報の充実を図ることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地における交通渋滞対策のため、観光客を含む公共交通の利用を促進する。</li> <li>古い町並界隈における車両進入制限の実施などによる快適な歩行空間の創出を進める。</li> <li>引き続き、高山祭やゴールデンウィーク、お盆の期間の臨時駐車場開設等により、市内の渋滞緩和と観光客利便性の向上を図る。</li> <li>観光客や市民に解りやすい標示や設置場所に配慮した誘導看板の設置を行う。</li> <li>高山市駐車場整備計画に基づき、適切な市営駐車場の管理運営を行うため、市営駐車場のあり方を検討するとともに、コスト縮減を図る。</li> </ul>

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市道について、多額の維持管理費用が必要である。</li> <li>・利用者が減少している市営駐車場がある。</li> <li>・古い町並界隈での渋滞などに対する交通対策が必要である。</li> </ul> <p>といったことが挙げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度がやや高く、今後の重要度はやや低くなっているが、道路は安全で安心して暮らすうえでの大切な生活基盤であるため、着実に道路環境の整備、維持管理を図っていく必要がある。</p> <p>特に、道路整備には多額の費用を要することから、長寿命化に視点をおいて、優先度(効果や効率性)の高い路線を整備する必要がある。</p> <p>また、市営駐車場については、個々の利用状況や民間施設との関連性等を詳細に分析したうえで、今後のあり方について再検討する必要がある。</p> <p>さらに、古い町並における車両進入制限を検討の上実施する必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<p>・地域住民に対するサービスレベルを上げることの重要性は当然だが、産業振興や観光振興などに対する道路の効果も期待されることから、その観点からの施策の位置づけ・検討も必要と思われる。特に、「機能的な道路ネットワークの形成」や、「道路利用環境の向上」は上述の観点からの取り組みも求められる。</p> <p>・高速道路網や地域間の重要交通網の事業推進を行うにあたり、まちづくり、観光施策、企業誘致などの構想や他の施策との連携や検討が必要である。</p> <p>・景観と調和した親しみのもてる道路の整備については、観光の要素も考慮して優先度を持って取り組むことも必要である。</p> <p>・孤立集落や迂回路の有無など整理をして取り組む必要がある。職員の技術力養成や、組織体制の構築などが必要である。</p> <p>・渋滞対策については、渋滞の発生の状況把握、原因や対策等の検討が必要である。車両進入制限などには、地域の理解と協力が不可欠であるため、住民を交えた検討の場を設けるなど、地域一体の取り組みが必要である。</p> <p>道の駅については、観光客への情報発信なども取り組まれるとよい。</p> <p>・施策と指標の関係を整理することも必要である。「臨時駐車場開設」の好ましい方向は数字が小さくなる方向であるとなっている。一方で、施策としては臨時駐車場を開設する方向での整理となっているので、整合性が取れていない。</p> <p>・指標の定義により、道路の満足度が比較的高く、今後の重要度が低くなっているが、長寿命化や道路管理など、現状のサービスレベルを維持する取組や、観光や産業振興などの観点もあることから、着実に整備、維持管理を図っていくなどの評価は適正と考える。</p>

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成27年度事業評価における担当課評価)

関連施策	事業コード	事業名	評価	事業費決算額(千円)	
			点数	H25年度	H26年度
1-ア、イ、ウ	74401	中部縦貫自動車道等推進事業費	80	3,510	722
1-エ	74310	街路事業費	80	347,717	647,400
2-ア	72100	道路橋りょう管理事務費	90	72,992	68,412
2-ア	72110	道路台帳管理費	100	12,418	18,296
2-ア	72200	道路橋りょう維持修繕費	90	1,107,128	1,033,528
2-ア、3-ア	72300	道路新設改良事業事務費	90	1,274	1,274
2-ア、3-ア	72310	道路新設改良事業費	80	927,532	379,458
2-ウ	74720	歴史的環境保全整備事業	80	9,476	9,245
4-イ	72440	臨時駐車場対策事業費	90	36,313	16,155
4-ウ	74800	駐車場管理費	100	24,865	21,023
4-ウ	21600	総合交通対策事業費	80	185,995	199,965
4-エ	61180	道の駅管理事業	80	53,131	52,368
4-エ	61183	ウッドフォーラム飛騨管理事業費	80	8,261	8,671

平均点	H25年度	H26年度
86.15	2,790,612	2,456,517